

15 福井城跡

所在地：福井市中央1丁目5番街区

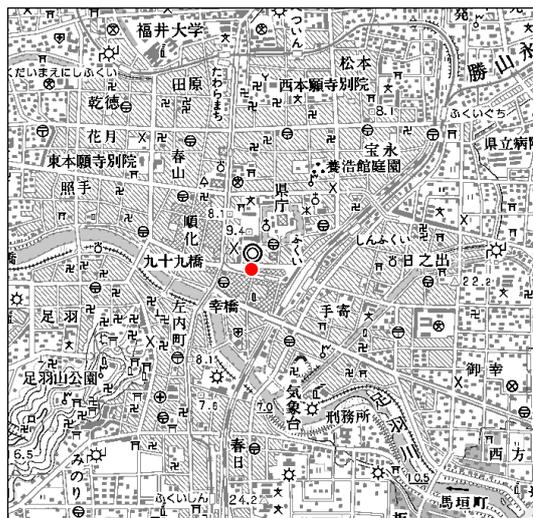
調査原因：市街地再開発事業

調査期間：令和4年12月～令和5年1月

調査主体：福井市教育委員会

調査面積：460 m²

時代：江戸時代



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 福井城は、徳川家康の次男である結城秀康が越前に入国した慶長6年（1601）から6年の歳月をかけて築いた約2km四方の平城です。

調査は福井駅西側の通称“三角地帯”において行いました。この場所は、福井城絵図と対照すると、百間堀西岸の「南外曲輪」と「南三の丸」とを結ぶ大手門である「下馬門」付近にあたります。

主な遺構 地表下約2.0mで、「下馬門」に通じる土橋を確認しました。土橋は東西に石垣を持ち、幅が18.5mあります。石垣は笏谷石製で、一石の大きさは最大0.8m四方を測り、過去行った福井城跡の調査で見つかったものと比べて4倍ほどの大きさがあります。石垣は東西ともに6段分を確認し、さらに下方に続きます。その積み方は、東側の石垣上部3段と西側上部1段分は、福井城天守台や大手門の「瓦門」と同じ切り石で隙間なく積む「切り込みハギ」と呼ばれる手法が用いられています。また、土橋では、東西の堀をつなぐ笏谷石製の暗渠が見つかりました。

今回の調査では、近代建物の影響により、江戸時代の遺構面は1.0m程失われているものの良好な形で土橋が確認されました。土橋の幅はこれまでの福井城跡の発掘調査で見つかったなかでは最大級です。また、石垣の大きさや積み方などが福井城跡の中でも主要部分でしか見られない手法を用いるなど、「下馬門」が重要な門であったことがうかがえます。今回の調査によって、これまで大きさや詳しい場所が不明であった「下馬門」の位置が特定でき、土橋の構造が明らかとなりました。

（白崎 一夫）



写真1 「下馬門」土橋全景(写真上が南)



写真2 東側石垣



写真3 西側石垣



写真4 暗渠(東から)



「福井藩十二カ月年中行事絵巻」より十一月
福井市立郷土歴史博物館所蔵